

負荷試験

負荷試験

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
2063	ICG試験 (インドシアニン グリーン試験)	停滯率 静注前、15分 血清 各1.0	1	遮光 冷蔵	3~4	100	比色法	停滯率 0~10 (R15) %	下図実施 スケジュール参照	【停滯率・高値/消失率・低値】 肝硬変・慢性肝炎・急性肝炎 体質性黄疸(特にRotor型) 胆汁流出障害 体質性ICG排泄異常症
2061		消失率 静注前、5分、 10分、15分 血清 各1.0								
2117	PFD試験 8A090-0000-098-271	開始前、尿 3 6時間蓄尿 3	6	冷蔵	3~7	100	DACA法	73.4以上 %	下図実施 スケジュール参照	【高値】薬剤(サルファ剤、サイアザド 系利尿剤、スルフォニル尿素) 【低値】肝機能障害・腎機能障害 小腸吸収障害・痔瘻・慢性肝炎
2130	クレアチニン クリアランス 8A020-0000-098-271	開始後30分 血清 0.5 開始後60分 又は24時間 蓄尿 3	1 および 6	冷蔵	1~3		酵素法	60分蓄尿 70.0~156.0 mL/min 24時間蓄尿 93.0~238.0 L/day	下図実施 スケジュール参照	【高値】糸球体過剰濾過 糖尿病腎症(前期) 先端巨大症、火傷 【低値】腎血流量低下 腎障害・SLE・尿路閉塞 糖尿病・感染性心内膜炎 肝硬変
6764	フィッシュバーグ 濃縮試験 8A080-0000-005-903	第1回採取尿 第2回採取尿 第3回採取尿 各5	6	冷蔵	1~3	100	比重計	【実施】1)試験前日午後6時までに夕食(タンパク質に富んだ水分の少ないもの) をとり、以後試験終了まで飲食を禁ずる。 2)就寝前排尿し、夜間に排尿したものは捨てる。 3)翌朝覚醒とともに第1回採尿(午前6時)。 4)被検者は臥床のままとし、1時間後第2回採尿(午前7時)。 5)その後は起床・臥床任意とし、さらに1時間後第3回採尿(午前8時)。 【判定】1)正常では3回尿のうち少なくとも1つの比重が1.025以上 (若年者では1.032前後、老年者では1.026前後)		【低値】腎不全・尿管症 間質性腎炎 慢性腎盂炎 閉塞性尿路疾患

※肝及び腎のクリアランステストとは、負荷後に検体採取及び検体分析を経時的若しくは連続的に行う検査である。

肝クリアランステストに該当するものは、ICG等を用いた検査であり、腎クリアランステストに該当するものは、PSP等を負荷して行うクリアランステスト、腎血漿流量測定、糸球体濾過値測定である。肝及び腎のクリアランステストは肝クリアランステスト又は腎クリアランステストのいずれかを実施した場合に算定できる。

※検査に伴って行った注射、検体採取、検体測定の費用は、すべて所定点数に含まれるものとする。

注射とは、注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は、別途算定する。

検査項目	実施スケジュール
ICG試験 (停滯率)	<p>ジアグノグリーン(1mL/10kg体重) 静注</p> <p>開始 5分 10分 15分</p> <p>↓ 採血 4mL ↓ 採血 4mL ↓ 採血 4mL ↓ 採血 4mL</p> <p>(注1) 採血は注射の反対側肘静脈から行うこと。 (注2) ジアグノグリーン(第一化学)および試験の詳細については説明書をご覧ください。</p>
ICG試験 (消失率)	
PFD試験	<p>PFD服用</p> <p>開始前 開始 飲水コップ1杯 6時間</p> <p>↓ 排尿 ↓ 排尿 ↓ 排尿 ↓ 排尿</p> <p>3mLを検体とする 蓄尿・尿量測定3mLを検体とする</p> <p>(注1) 開始後から6時間までの尿は全て蓄尿し、尿量を依頼書に記入。 (注2) PFD内服液(エーザイ)および試験の詳細については説明書をご覧ください。</p>
クレアチニン クリアランス	<p>60分</p> <p>開始前 開始 30分 60分</p> <p>↓ 排尿 ↓ 完全排尿 ↓ 採血 3mL ↓ 完全排尿 約300mLを飲水(微温水) 尿量測定</p> <p>検体</p> <p>●身長、体重、開始後60分尿量をはかり依頼書に記入してください。</p>

